

21 ○赤平知也・花岡朋絵・平山和幸

青森県におけるリンゴ黒星病菌のDMI剤に対する感受性

Akahira, T., Hanaoka, T., Hirayama, K. : Sensitivity of Apple scab by *Venturia inaequalis* to DMI fungicides in Aomori Prefecture.

2016年、青森県では前年に続き津軽地方でリンゴ黒星病が多発し、病斑が果梗や果実にまで生じるなど生産現場では深刻な問題となっている。今回の発生要因の1つとして、本病の防除に利用してきたDMI剤に対する感受性の低下が疑われたことから、ポット植えリンゴ樹を用いて接種試験を行い、県内2か所の多発園から採集したリンゴ黒星病菌に対するDMI剤の予防および治療効果を検討した。散布5日後接種で予防効果を検討したところ、フェンブコナゾール水和剤、テブコナゾール水和剤およびヘキサコナゾール水和剤は弘前市から採集した菌株に対して防除価が22~81と薬剤間で効果に差がみられるものの、その効果は低かった。青森市から採集した菌株に対してはいずれの薬剤も防除価0~3と効果がほとんど認められなかった。また、接種3日後散布で治療効果を検討したところ、弘前市、青森市それぞれの菌株に対して防除価が20~76, 0~11と予防効果と同様の結果となった。このことから、県内のリンゴ園にはDMI剤に対する感受性が低下した菌が存在する可能性が示唆された。

(青森産技セリんご研)